



「核共有」論に対する市長の認識はどうか
橋爪 法一（日本共産党議員団）



問／ロシアのウクライナ侵略は断じて許されない。これを契機に政界の一部で「核共有」論が出ているが、市長の認識はどうか。

答／非核平和友好都市を宣言した自治体の長として、「核共有」は容認されるものではない。

問／核兵器禁止条約批准を政府に働きかけるべきと思うが、どうか。

答／「平和首長会議国内加盟会議」や「日本非核宣言自治体協議会」において、政府に対し条約の批准などを要請している。思いを共有する多くの自治体と連携しながら、引き続き、核兵器の廃絶に向け取り組んでいく。

問／中学生の広島訪問は重要である。平和記念式典が仮に中止されても被爆地を訪問してもらうことが大切だと思うが、市長の認識はどうか。

答／派遣事業の実施方法等の見直しに関しては、教育委員会、学校関係者との協議も含め、検討していきたい。



上越を世界最先端の克雪・利雪先進都市に！
滝沢 一成（政新クラブ）



問／「雪と生きること」これが上越市の宿命である。人が住む都市としては上越市が世界で一番雪が積もるといふ。どんなに雪が積もっても一人暮らしのお年寄りから企業まで心配不要の「克雪・利雪先進都市上越」をつくるのが夢だ。

答／雪国の安心安全の確保、雪による災害に備えた克雪対策と、産業や観光などに雪を利用する利雪を推進する。

問／現行の消融雪施設整備計画では加温式消雪パイプの新設工事が1件しか記載されていないことに、前市長は「緒について」と考えてほしい。つまりこの後に新設が続いていくという答弁をした。行政施策の継続性から当然その答弁は生きていると考えるがどうか。

答／既設消雪パイプの老朽化対策を含めた整備の優先順位を定め、財政計画との整合性を図りながら新たに1路線の新設を載せた。次期計画では、利用可能な水量や財政計画との整合性など様々な課題を整理して検討したい。

問／水量調査は完了しており、それぞれ要望がある路線の点数付けも終わっている。市民からの要望もすでに出尽くしており、あとは具体的に進める決意を市長がするだけだ。

答／登載すべき加温式消雪パイプの路線の具体的な検討を進めていく。



「政策協定」の重要性を軽視する中川市政！
宮越 馨（無所属）



問／政治の基本は「信なくば立たず」である。民主主義制度に基づき結んだ「政策協定」を市長は軽視したが、その真意を聞きたい。

答／議員の政治手法や財源確保の手腕を学びながら、まちづくりを進めたいと考えていた。政策については納得したものしかやらない。市長として自己決定自己責任において予算編成した。

問／政治の理念は、「困っている人を助ける」である。コロナ禍で困っている小規模零細事業者への特別支援金を給付すべきだと思うがどうか。

答／今後も随時感染拡大の状況把握に努め、状況に応じた必要な支援を機を逸せず実施していく。

問／子供年金制度のニーズ調査を令和3年12月定例会の一般質問で検討すると答弁したが何故予算化しなかったのか。他の子育てニーズ調査と合わせて行えば何ら問題はないではないか。

答／国や県の支援が定かでない中、将来の財政負担の増大が見込まれるため、制度の導入まで考えに至らず、関連するニーズ調査は見送った。

問／市長の政治姿勢は左翼革新と言われているが、上越市政は歴代保守政治を標榜してきた。私には保守改革派と言っていたが違うのか。

答／私は保守でも革新でもない。

問／過去、柏崎市に1年ほど滞在し、反原発運動をしていたと聞くが。

答／短い期間居たが、反原発運動はしていない。